

会 議 録

会議の名称	令和3年度第3回天草市総合政策審議会
開催日時	令和3年11月24日(水) 13:30~15:40
開催場所	天草市本渡浄化センター3階 第1会議室
議長名	玉村 雅敏
出席者氏名	玉村会長、田中副会長、江良委員、小田委員、木村委員、黒沢委員、澤田委員、西村委員、森本委員、山下委員
欠席者氏名	荒木委員、小川委員
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 報 告 (1) 令和3年度第2回天草市総合政策審議会会議録について 4 議 題 (1) 第2次天草市総合計画後期基本計画の改定について (2) 第3次天草市総合計画基本構想について 5 その他 6 閉 会

審 議 内 容

議題(1) 第2次天草市総合計画後期基本計画の改定について

○事務局より説明

(会長) 事務局から説明があったが、政策の項目毎に委員皆様からのご意見をいただきたい。

《政策：農業の振興》

(副会長) まちの人達は総合計画に書かれていることを詳しい人は知っているかもしれないが、分からない状況でやっていらっしゃる人が多くいると思う。特に一次産業、農業をやっていらっしゃる方、主体は農家さん。行政は支援。スマート農業は、DXにも絡んでくる。農家さんの悩みも多様化しており、農家さんごとに色々な働き方、消費者とのつながりが出てきている。行政はどのくらい困っているのかなど把握されていると思うが、セーフティーネットの見直し、第3次総合計画ではそのような場をつくり、丁寧な対話の場が必要と思う。スマート農業は大事。今までできなかったことが、コロナ禍の中で特に進展し、できるようにもなってきている。

(事務局) 天草市では、高齢化と新たな担い手不足、労働力の問題が農家や農協を通じて課題として上がってきている。この1年間で天草型スマート農業ビジョンの作成を進めている。全国的にスマート農業がうたわれているが、よく無人田植え機やコンバインなど多額の費用を上げられているが、農地規模や現状を踏まえ、天草市にはそぐわないと考えている。今回、天草市のスマート農業のキーワードを「機械の共同化」、「委託作業の推進」、「作業の省略化」として、意見交換を行いなが

ら進めている。これからも、色々な意見を吸い上げながら天草型スマート農業ビジョンの作成を進めていく。

(副会長) 天草型というのが大事だと思う。東京で言われたことをやるのではなく、地域にあった特有のものがあると思う。行政には、横転換において支援を行い、情報発信は地元のやる人が行うことがいいのではないかな。

(委員) 天草型スマート農業が意味するものを具体的に市民に分かりやすくすることが大切ではないか。概念が分かっていないと評価することができない。評価の精度を上げるためにも、ぜひ市民にわかりやすく表現、明示してもらいたい。

(会長) この考えは、第3次総合計画の考え方にもつながっていく。それぞれ個々の方の自分の事として取り組んでいくということも天草型だと思う。天草型というのは特色を取り入れる、「ともに考え」「ともに行動する」「ともに残す」このようなことも考えることで天草型になると思う。

(副会長) 農業だけでなく、農福連携というのもある。アシストを付けることで力の弱い方でも仕事ができることもある。高齢になっても、健康づくりを含めて農業ができるという場合は、福祉部門の方との連携も必要となってくる。それぞれの分野が連携するというのも積極的に進めてもらいたい。縦だけでなく、横から見ていくことも大切だと思っている。

(会長) そういうことができるために、現在、事務局には、各専門部門があり、連携することが重要な要素だと思う。農業の生産性を上げるだけでなく、連携することで結果として健康づくりにつながるなどの効果も見ることができてくる。

(委員) 天草型ということが大切。天草型から連携、つながりなどが出てくると思われる。計画段階でもいいのでぜひ出していってもらいたい。

《政策：観光の振興》

(委員) 「オール天草」、この言葉が出てきたことが非常にうれしい。一つ確認したい。天草市がオール天草で動くにあたって、上天草市や苓北町との計画のすり合わせなど考えがあるのか。ぜひ、アクションを起こしてもらいたい。

(事務局) 現在も観光振興協議会という2市1町と県での組織があり、長年オール天草での取り組みも行っている。また、観光協会にも入っており、オール天草の話も現在行っている。天草市では新たに道の駅「かかしの里」をオープンし、道の駅戦略としてスタンプラリーを展開。現在は、リアル宝探しと題し、道の駅に来るだけでなく、来た後にリアルに地域を回り、宝探しをしてもらおう実証実験を始めている。上天草市には、道の駅としてさんぱーるがあり、新たにこのさんぱーるを含め取り組んでいきたいと考えている。また、苓北町には物産館もあり、そのようなところともつなげ、オール天草として取り組んでいくことも検討している。

(委員) 天草は復興インバウンドの効果が高い地域だと思う。私たちも食、産業、宿などの多面での話をしていて、天草を1つの市や町で見るのではなくお互い連携して天草として行っていく必要があると話をしている。

(会長) あえて、オール天草ということで、これまで取り組んでいたことも含めてアピー

ルしていくことが必要。今までどおりではなく、これがオール天草と具体化してもらいたい。

(委員) 外からきた人間として、オール天草は非常に重要だと感じている。例えば、日本三大ちゃんぼんの一つとして天草が入っている。誰が認定ということではなく、観光の戦略の一つとして定着している。特に検証することではなく、天草で認定されている。今は、上天草の五橋までではなく、7つの橋、これから開通する本渡の橋、牛深の橋までを入れてしかけてもいいのではないかと思う。何か具体化するものがあるといいのではないかと考えている。

(事務局) 現在、市と観光協会は両輪となって進めている。観光協会はソフト面、市がハード面との考えで。今年度、部会を設けて、お宿、アクティビティ、飲食、宿泊の4つの分野に分かれて協議、取り組みを行っている。今回、観光協会との意見交換なども含め、観光誘客キャンペーンなどにも取り組んでいる。ハイヤ大橋は県内最も長い橋。観光協会とぜひ進めていきたい。オール天草の取り組みにおける詳細の部分は、実施計画で進めていきたいと考えている。

(会長) 2市1町だけでの連携ではなく、いろんな幅広い分野での連携があることもフレーズとして考えてもらいたい。

(委員) 地域ブランドの取り組みの中で、イチジクの商品化がある。イチジクの生産は天草ではなく、宇城地域が多い。そういった近隣の地域とも連携し、2市1町だけでなく、オール天草としての一体化という取り組みがあってもいいと思う。

(委員) 天草は歴史性が高く、生産物も多い。また、祭りなどの歴史文化財もたくさんある。本当に2市1町だけではなく近隣の地域とも連携して広げ、活用していくことが大事だと感じた。ぜひ、そのようなところも取り入れてもらいたい。

(事務局) 天草には南蛮文化など多様な文化もある。庁内では、情報共有を含めたアクション5と名付けて連携した会議を行っている。今回いただいた意見も含め、今後取り組みを進めていきたい。

(会長) オール天草は自治体連携だけではなく、いろんなものを含めて、ぜひ、オール天草の概念で考えてもらいたい。

(副会長) 私は、何ごとにも3つで考えることが必要だと考えている。今回のオール天草には、エリア、分野、SDGs の考えにもなるが公民連携、主体の連携といったこの3つのことが大事だと思う。

《政策：行政サービスの質の向上》

(会長) 今回の説明は、政策である行政サービスの質の向上の各施策計画の取り組みの中に新たにまちづくりバンクを創設する、また、自治体DXの考えを取り入れて進めていくことだと思う。今後は、行政経営改革大綱ときちんと連動していくことを議論していくことが必要。

議題(2) 第3次天草市総合計画基本構想について

○事務局より説明

(会長) 基本構想についてとなっているが、今回は、基本構想がどういった意味をもち、

こういった構成となっているのかをまずは委員の皆さまにご理解をしていただきたい。示されている図などを含めご意見をいただきたい。

(副会長) 理念のイメージ図は素晴らしいと思うが、少し多様性という部分に欠けるのではないかと感じる。軸が一本で同じ方向性に回る表現となっている。私は、フレキシブルに変わる必要があると考えている。例えば、ボール型に環境、経済、社会という言葉は使わずに、文化と表現をしているが、エコロジー、エコノミー、カルチャーを動かしていくのが人、コミュニティ、社会で回していく。天草市は10市町が合併してできており、それぞれのコミュニティにいろいろな特色がある。しかし、人は共通ということ。今回示された図は、同調圧力が少し強い気がする。一つが逆回りになることもあるので。その時にブレーキ、ストップをかける時の表現がしにくいのではないかと感じた。

(会長) バラバラでいくのではなく、連動して動くという表現をすることが一つの要素と考えられる。環境というところでも自然環境だけではなく、生活環境という部分もあり、文化だと広い意味もあると思う。広い感覚、概念もあるので。

(副会長) それぞれに色々な価値観もある。見えるもの、見えないものに分けられる。また、価値化できるもの。できないものにも分けられる。社会は、どちらかという人と人が作ったもの。文化で表現した方が、行政的にはバランスがいいのではないかと思う。行政は実際、社会に扱っているようで扱っていないと思っているので。

(会長) 文化だと広い意味も持っているということ。人がつながる影響を考えるとという意味でも。

今回の第3次天草市総合計画は、2030年の姿を考えようというもの。2030年の天草市をイメージして目指していくということ。それを具体化したものが理念であって。ありたい姿はそれをもっともっと具体化したもの。委員の皆さんには、今回の基本構想は、こういった構造で行くということをまず理解してもらいたい。

(委員) 今回示された基軸と柱がどう違うのか説明をお願いしたい。

(事務局) 今回、基軸は柱を動かしていくものとして位置付けている。全てを動かしていくのが人という意味で基軸として考えた。

(委員) 人が全てのことにかかわっていくということと考えていいのか。

(事務局) はい。

(委員) 人が基軸になっているということになっているが、例えば、柱の一つである「経済」をみると、大きな経済成長を感じるが、私は、大きな経済成長ではなく、自分ごとというか、みんなごとというか、一人一人が少しずつでもかかわっていくということがいいと思う。直接経済にはかかわれないかもしれないが、すべての人が少しずつでもかかわることができればといいのかなと感じたところ。経済成長の中に直接結びつかないと思われる福祉分野の方からも経済に関しての意見を聞いてほしい。鹿児島ではふるさと納税などの返礼品にも、福祉の方の陶芸品や木工であったり織物などがあり、そこから観光との結び付けもあたりもしている。また、天草市内にはビーチクリーンに取り組んでいる方など色々いらっし

やるが、それは、地域だけ、携わっていらっしゃる方々だけが中心となっていて行われている。私は、もっと市民全体に環境について知ってもらう一番身近なところが山や海にあると思うので、ぜひ、まちづくりの中にこのようなことも含んで取り組んでもらえればと思う。あと、ワークショップには若い方も参加されて良いと思う。これまでは、ある程度年齢のある方が参加されると思うが、今の中学生や高校生の思いには強いものがあると感じている。実際、子どもが自分の親以外の場所で知り合う大人と話せる機会はすごく楽しくいいことだと感じることもあった。そして、その子ども達は天草に対する気持ちが強くなることが実感もできた。まちづくりのワークショップに学校への協力依頼や若い人たちも参加できるような機会があれば、2030年のこれからの天草を実際に担ってくれる人が自分ごととして考えられる機会になると思う。

(会長) 今のご意見のように、だれとともに考えていくといいのかということがポイントになる。このようないろいろな人たちが集まり、話ができれば基本構想へより多くの素材が集まっていくので。委員の皆さんからもこういった人を集めますなど、ぜひ事務局へお知らせいただければ。

(副会長) いきなり、市民の皆さんへ第3次天草市総合計画の2030年の天草の姿を考えてというのは無理だと思う。自分は10年後にこうしたいなど個々の夢が重なっていき、一つの形になると思っている。今回のワークショップには私も事務局からお願いされ携わっているが、参加者がフリーに話せる場にしたいと考えている。委員が言われたように、私は10年後こうしたいなど、これからを担う子どもたちがいないワークショップはないと思う。SDGsの観点からできれば男性、女性、年齢層が均等になっていることが望ましいと考えている。みなさんが苦労すると思いますが、ご家族やお知り合いなどにも話をしていただき、市職員の皆さんにも参加してもらいたいと考えている。

(会長) ワークショップは、今回の4日間だけという意味ではないのか確認したい。今後、例えば、青年会議所の人達を集めるとか、様々な団体の人達にも声をかけ、集まり、話ができる場を作ればと思ったところ。事務局には2030年の天草はどうなっているかなどを見せることができる資料をつくるなど工夫も必要かと思う。

(副会長) 私は、今回話があった「まちづくりバンク」が自分達でできるようになることが理想だと思っている。ここで体験した人が次は仲間内でやってみようかなどそれぞれの場所でやっていき、どんどん自分達でワークショップができるような人達が増えていくことが。まずは、市職員へ私がワークショップの手法を教え、そのあと、公民館講座などで広げていただき、そこからどんどんとさらに広がり、最後は中学生も自分達でこのような話ができるようになっていくことが理想で、自分達でいろいろなことに対して対話し、決めるという輪が広がっていくことが今回のまちづくりバンクの機能としては大事だと思う。天草市では3人集まっていれば、何か政策の話をしている。このようなまちになっていると持続可能なまちになったと思うし、そういうふうなまちにしていきたいと思いますというのが今回の

ワークショップのデザインの基本となっているところ。

(委員) 学校関係では、地域学校共同活動という取り組みがある。地域の課題を小・中学生の視点から考え、子ども達のアイデアで解決しようとする学習活動。今回の話は、とてもタイムリーであり、子ども達にとって得がたい経験になる。ぜひ実現していきましょう。その時には校長先生や教頭先生のご理解と協力も必要だと思うので、教育委員会の方で作戦を練ってもらいたい。研究指定校などもあるので。そして、ぜひ、高校生の考えを大事にしてほしい。最近の高校生は本当によく考えている。若いヤングパワーが加われば10年後と言わず、50年後と長いスパンの考えも出てくる。ぜひこのようなことができるように事務局内でも連携をとってもらいたい。倉岳地区には18年間で子どもを育てるという組織がある。それぞれの地域の方々が子ども達を見守っていく。そのような人達にも今回の内容をお伝えし、参加してもらいたいと考えている。子ども達には、10年後の天草市に期待することなどを具体的に聞いていただくことで天草市の姿がでてくる。それにプラスして大人の考えを取り入れることも大切。

(副会長) 昔と違い、今は、大人と接することが学校では難しい状況にもある。逆に子ども達を学外に出してあげることも重要。学校の成績が良くなくても外に出ると活躍できる子もいる。今は多様性を重視するところでもある。今考えたが、「みんなの夢を天草の夢にするワークショップ」として2030年の天草をこんなにしたいというのを語っていただきたいと思った。できるだけ、多様な人達が混ざり合うワークショップができればと考えている。

(委員) ワークショップには、学生はもちろんですが、ぜひ、赤ちゃん、子育てをするお母さん達の視点を忘れないでほしい。その人達の声は、今の子どもたちが大人になるときの天草の姿になるので。その時の社会をつくるための考えになる。ワークショップの開催時間が夜では子育て中の人の参加は難しいかもしれない。子育ても支援している私達 NPO に託していただければ、お母さんたちの意見を聞きますので。あと、毎月学生さん達にも協力していただいているイベントも行われており、赤ちゃんから高校生、大人、商売をされている方の魅力あるつながりも生まれてきている。ぜひ若い子ども達の力を活用してもらいたい。

(会長) 「みんなの夢は天草の夢」というフレーズはいい。地区ごとで行うということは必要ですが、それに限定するのではなく、多様な方を集めましょう、今集まっているメンバーが提案しようではなく、自分事として、自分の夢はこうだ。それをみんなの夢にしていきたいというようであれば。作戦立てしていただき、委員の方からも広げていってもらいたい。

(委員) 天草だけでなく、他の地域に住んでいらっしゃる天草にゆかりのある人からの意見もぜひ入れてほしい。

(会長) 外からの人の意見から天草の良さを振り返ることもできるし、最近住み始めた人からはなぜ天草がよかったのかなど感覚として見えることもある。ぜひそのような人に入ってもらい、声を集めることも大切。

(委員) 天草元気プロジェクトで頑張っている若い方もいる。ぜひ、そのような人にもお

願いし、活用してもいいのでは。

(会長) まずは考えていただくことだけでもいいと思うので、ぜひ、そのような人達へ伝えていただき、対話に広がっていければ。あと、みつばちラジオが重要になっていく。ラジオの中で「みんなの夢を天草の夢にしよう」など声を集めていただくこともできるし、今回のワークショップだけでなく。

(委員) 子どもの事で悩んでいたりと、発言をしたりするとたたかれたりと思う人たちもいる。学校に行けない子ども達も多くいる。外に出て、将来のことなどキラキラした話ができない人もいるかもしれない。ネット越しにでもみることができればとも思った。

(副会長) 今回のワークショップはキックオフと考えている。オープンな場所のほか、今はICTを活用して安心して話せる場、つまり、オンラインによる安心して対話の場ももてるようになっており、いろいろな対話の場ができるようになってきている。私は、一番大事なのは対話の中で、他人を否定しないということだと思っている。このご指摘は大変大切なこと。

(会長) 発言して何かをすることとはアクティブなところにもなる。その点、ラジオはみんなが聞いて、それに関してみんなが理解していくことで安心感にもつながっていく。その中から自分からちょっとしたことをやってみるということが生まれると、大きな変化だと思う。

(委員) 基本構想の体系図で基軸は人になっているが、第2次総合計画では、人が輝くまちを目指してきたと思う。これまでの計画では、産業、やすらぎ、文化、自治体経営などいろんな複数の要因で人が輝くまちを目指してきたと思う。私も実際天草に来て、天草はこんなに環境がよく、子育てがしやすく、起業創業にあたってもかなり手厚い支援があるいいところだと感じたところ。ただ、何か足りないもの、考え直さないといけないとすると、もしかすると「経済」「社会」「環境」をもう一度考えることで人が輝ける場所がつかれるのではないかと思う。どうしようもないところに人は寄りつかない。天草にいる人が天草の良さを把握されているのか。外から来た人からの意見を明確にし、社会、経済、環境の良さ、改善点を深掘りすることで本当に人が輝くことができるのではないかと考えられる。今回、あえて人を基軸としたのかを説明してもらいたい。

(事務局) 第3次天草市総合計画では、人を中心としたまちづくりにしたいとの思いから基軸としたところ。また、前回説明した策定方針の中でも自助・共助・公助、コミュニティの再構築、シビックプライドの考え方など話をしたところ。市長の方も、他人事ではなく自分事として考えてもらいたいと述べられており、また、天草市民一人一人は本当に頑張っているが自分だけ、一緒にやればまだ力強くなると言われている。個々が空回りするのではなく、一緒につながり作り上げることが大切だと考えている。たしかに深掘りしていくことで人が輝いていくこともあると思うが、まずは自らが考えを変えていくことで経済、社会、環境を変えていくということ。これからは、行政だけでなく、自らもやっていくということをお願いしていきたいと考えている。1人でできること、10人でできるこ

と、100人でできることいろいろなことがあるが、全ては人になる。学べる場をつくっていき、地域活動も人と人が一緒になって同じ考え方をもっていくことも必要であると考え、今回は人を基軸とした。今までやってきたところも深掘りしていくことで人も輝いていけるとも考えている。

(会長) ワークショップの開催の考えについて、事務局から再度説明をお願いしたい。

(事務局) 今回のワークショップの3回は、夜の時間帯で地区ごとの開催を設定した。いろいろな業種の方、年齢の方に参加いただき、どういった形で声を聞くことができるかなどを考え、夜の開催とした。本来なら合併前の10箇所での開催も考えたが、合併して15年が経過しており、わがまちの考えではなく、他のまちの方々とも一緒になりともに作り上げていくということで今回はあえて3地域で設定し、最後の日は昼間の時間帯で全地域を対象としたワークショップを設定させていただいた。委員からも話が出たとおり、様々な団体の方からも2030年の天草の姿、みんなの夢は天草の夢ということで議論していただきたい。ぜひ、委員皆さまが参加されている団体やここに聞けばどうだろうなどご紹介いただきたい。ラジオの活用についても相談していく。いろいろな方々の意見を聞いていく必要があると考えており、批判、否定ではなく、自分の夢をどんどん出していける場所、環境を作っていければと思っている。

(会長) 今回のプロセスの中には、いろいろな人達がかかわり、考え、そして自分ごとになっていくといいものが出来上がるということを考えるところ。もっともついろいろな人がかかわり、考え、自分の夢、みんなの夢、そして、天草市の全体の夢という形、みんなで考え理解できるようにすることが必要。回数を限定するのではなく、ラジオの活用など新たなやり方もぜひ考えてもらいたい。コロナの状況で人を集めることも難しいことがあるかもしれない。そのタイミングで問題があれば、他のやり方も検討してもらいたい。今回、職員のワークショップ研修を行われるということは大変いいことだと思う。ファシリテーション能力を上げることは大切であり、そのスキルがないと市職員は本質的なことができない。参加される職員の皆さんには、今回のワークショップのためにだけでなく、今後のいろいろな場面でも重要となってくるので、ぜひ、市役所の中でもワークショップができるチームを作っていってもらいたい。

以上